

《学校教育目標 思いやりの輪を広げ 本気で楽しく 元気に学ぼう》「2月の連携号」



かけはし

大仙市立西仙北小学校 学校報 平成29年度 第47号 (2018.2.7)

「2月上旬の連携」を紹介します。

「大綱引きに関する活動体験」(5・6年生) 2月2日(金)

大綱の「綱よい体験」をしました。重い綱を何度も動かして大綱にしました。



綱を持ち上げて綱よいする「上町の大綱」



綱を転がして綱よいする「下町の大綱」

4年生が「ぐみ編み体験」をした綱を、今度は5・6年生が「綱よい」をしました。

上町が中央公民館前で、下町がコミュニティーセンター前で行いました。とてもよい天気の下、西仙北中学校の生徒と一緒に「綱よい」をしました。

上町と下町で「綱よいの仕方」が違うことを知りました。(校長談)

小学生・中学生・高校生そして地域の方々の連携で、どんどん大綱になっていきました。出来上がったとぐろ巻きの大綱が、「ぐみ編み」「綱よい」などの大変な作業をして作られていることを、子どもたちは体験活動を通してわかりました。

2月10日(土)午後9時の本番が、より待ち遠しくなりました。

「南極からの授業」(4・5・6年生) 2月5日(月)



「ペンギンはどうやって体液濃度を調節してる？」

秋田県立大曲工業高等学校教員の須田宏先生が、第59次南極観測隊(夏隊)の同行者として、派遣されています。今、南極は夏季にあたり、比較的過ごしやすい気候だそうです。

2月5日(月)14:30～15:15に、南極の昭和基地より、4・5・6年生に向けて衛星回線を用いた授業を行いました。

南極と日本の時差は6時間で、現地時間午前8時30分からの授業開始でした。内容は「アデリーペンギンのことについて」「400mの厚さがある氷河の掘削について」など映像を通して教えていただきました。子どもたちの質問にも答えてくださいました。さらに細かいことは、帰ってきてから出前授業で教えてくださいます。